

第一日曜日
教会学校 9:00～
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～

その他の日曜日
教会学校 9:00～
聖書を読む会 9:00～
主日礼拝 10:30～

日本基督教団 麻布南部坂教会月報

2017 (平成29年) 11. 12

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

聖書と祈り会
毎週水曜日 10:30～
成人会
第3日曜日 礼拝後
婦人会
第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

「神の言葉の働き」

(テサロニケの信徒への手紙一〔四〕)

牧師 松谷 祐二

テサロニケの信徒への手紙一 第二章三三～一六節

このようなわけで、わたしたちは絶えず神に感謝しています。なぜなら、わたしたちから神の言葉を聞いたとき、あなたがたは、それを人の言葉としてではなく、神の言葉として受け入れたからです。事実、それは神の言葉であり、また、信じているあなたがたの中に現に働いているものです。兄弟たち、あなたがたは、ユダヤの、キリスト・イエスに結ばれている神の諸教会に倣う者となりました。彼らがユダヤ人たちから苦しめられたように、あなたがたもまた同胞から苦しめられたからです。ユダヤ人たちは、主イエスと預言者たちを殺したばかりでなく、わたしたちをも激しく迫害し、神に喜ばれることをせず、あらゆる人々に敵対し、異邦人が救われるようにわたしたちが語るのを妨げています。こうして、いつも自分たちの罪をあふれんばかりに増やしているのです。しかし、神の怒りは余すところなく彼らの上に臨みます。

使徒言行録 第十七章一～九節

パウロとシラスは、アンフィポリスとアポロニアを経てテサロニケに着いた。ここにはユダヤ人の会堂があった。パウロはいつものように、ユダヤ人の集まっているところへ入って行き、三回の安息日にわたって聖書を引用して論じ合い、「メシアは必ず苦しみを受け、死者の中から復活することになった」と、また、「このメシアはわたしに伝えているイエスである」と説明し、論証した。それで、彼らのうちのある者は信じて、パウロとシラスに従った。神をあがめる多くのギリシア人や、かなりの数のおもだった婦人たちが同じように二人に従った。しかし、ユダヤ人たちはそれをねたみ、広場にたむろしているならず者を

何人が抱き込んで暴動を起こし、町を混乱させ、ヤソンの家を襲い、二人を民衆の前に引き出そうとして捜した。しかし、二人が見つからなかった。ヤソンと数人の兄弟を町の当局者たちのところへ引き立てて行って、大声で言った。「世界中を騒がせてきた連中が、ここにも来ています。ヤソンは彼らをかかまっています。彼らは皇帝の勅令に背いて、『イエスという別の王がいる』と言っています。」これを聞いた群衆と町の当局者たちは動揺した。当局者たちは、ヤソンやほかの者たちから保証金を取ったうえで彼らを釈放した。(新共同訳聖書)

右に引用した「使徒言行録」一七章の箇所は、テサロニケ教会がどのようにして始まったかを伝えています。パウロとシラスが会堂へ行つて、「十字架で死に、そして復活したイエスこそ、旧約聖書が指し示すキリスト(メシア)、わたしたちが信すべき方である」と説きました。すると、ユダヤ人たちの一部、ギリシア人ながら、ユダヤ教徒の信じる神を信じあがめていた人たちが多数、上層階級の女性たちが多数、イエス・キリストを信じるに至りました。この人々が、テサロニケ教会の最初の信者たち、パウロの「テサロニケの信徒への手紙」の宛先の人々です。

彼らのキリスト教への入信は、最初から波乱含みでした。会堂に来ていたユダヤ人たちの大半は、信じようとしませんでした。ねたみから、伝道者パウロとシラスを捕らえて裁判にかけ、罰しようとしたのです。二人が捕まらなかつた代わりに、入信したばかりのキリスト者たちが訴えられる結果になりました。

パウロはこの出来事を回顧し、その後も続いているであろう、ユダヤ教側からの圧迫を思いながら、テサロニケの信徒たちを励まします。「兄弟たち、あなたがたは、ユダヤの、キリスト・イエスに結ばれている神の諸教会に倣う者となりました。彼らがユダヤ人たちから苦しめられたように、あなたがたもまた同胞から苦しめられたからです。」あなたがたの先輩たち、エルサレムをはじめユダヤ地方にある諸キリスト教会の信徒たち

は、以前からこのようなユダヤ教徒からの迫害を経験してきた。あなたがたも今、同じ苦しみを受けている。いや根本的には、イエス・キリストご自身が受けた苦しみにあずかるという光栄ある経験をしているのだと、パウロは言いたいのでしよう。そして逆に、預言者たちのいた昔も、神がついにイエス・キリストをお遣わしくくださった今の時代も、神の言葉をかたく拒み続けているユダヤ人たちを、厳しい調子で非難しています。

兄弟たち、あなたがたは、かかる逆境の中でよくぞ入信し、そして今もその信仰に立ち続けてくれている——と、パウロは感動し、神に感謝しました。そして、彼らがこも大胆に、勇気と忍耐とをもって歩み続けることができている、その秘訣を、彼ら自身の素質ではなく、彼らの内に現に働いている、「神の言葉」に見出しました。

テサロニケの信徒たちは、パウロとシラスが来て福音の説教をしたとき、それを聞いてイエス・キリストを信じました。「あなたがたは、それを人の言葉としてではなく、神の言葉として受け入れた」とパウロは書いています。これは別に、彼らがその場でただちに「おお、これは人間の声ではない、神のお告げだ! ははーっ」というような極端な反応を示した、という意味ではないでしょう。静かに、考えながら聴き入った、そして時間はかかったけれども、とうとう信じた。それだけかもしれない。しかし、彼らが「信じた」というこの小さな出来事、この出来事の真相は、彼らが「人の言葉としてではなく、神の言葉として受け入れ」た、ということだ。人が「神の言葉」を聞くことができるという、すばらしい出来事が、そこで起こっていたのだと、パウロは、その意義を掘り下げて言っているのだと思います。

聖書の文章そのもの、礼拝での説教、兄弟姉妹による、信仰的な勧めや執り成しの祈り、それらの「人の言葉」を通して、イエス・キリストを信じる人は幸いです。その人は、「神の言葉」を受け入れるのです。「神の言葉」はその人の内に宿り、働き続けてください。キリスト者というのは、そのようにして「神の言葉」によって生み出され、成長させられていく存在なのです。

置かれた場所で咲きなさい

眞野裕子

「今日から、あなたは求道者となりました」

就職が決まった時に、前牧師の渡邊先生がおっしゃった言葉です。ここから私の南部坂教会、幼稚園での生活が始まりました。それから八年間この言葉は心の中でずっと生き続け、自分にとってキリスト教とは何か、と日々自問自答してきました。そしていつも思うことは、なぜ今自分がここにいるのか、ということでした。

実家は仏教の教えを守っておりましたので、小さな頃から仏様に手を合わせてきました。我が家では、朝、仏壇にお線香を上げ、ご飯やお茶のお供えをするのが子どもたちの仕事で、ここから一日が始まります。何か辛いことや悩みがある時にはご先祖様に手を合わせ、心を整えるようになり、月命日にはお墓参りをして日々の報告をしていました。

そんな家庭で育った私がキリスト教と出会ったのは高校生の時でした。幼い頃から人間は何か見えなくても動かされていられると思



いたので、宗教学や哲学を学べる倫理の授業を選択しました。様々な宗教の思



想や歴史を知り、比較していく中で、キリスト教には様々な疑問を抱く一方、共感を持つる事も多くあり強く興味を感じました。その影響があったのか、その後もキリスト教系の大学でキリスト教保育を学び、南部坂幼稚園に就職しました。

最初はキリスト教の新しい世界観が楽しくて、南部坂幼稚園の保育観が好きで飛び込んだこの世界でしたが、日々過ごしていると、なぜ仏教の家に生まれた自分がここにいるのか、内から出てくる言葉や祈りは聖霊による御言葉なのか何なのか、心の問題だから受洗という見える形にこだわらない、等と自分の心に小さなブレを感じるようになりまし

た。そんな時にある方から「どんな入口でもいい。あなただからできる宗教を歩めばいい」という言葉を言われ、これまでの過去に捕われるあまり未来を素直に選ぶことができな

ていこうと、素直な気持ちで受洗を望むことができませんでした。今思えば、神様のお導きはずっと昔から私の側で枝葉のように伸びており、これまでの日々の生活や様々な人の支えによって、ようやく神様へと繋がる事ができたのだと思います。

報告

*十月一日(日) 眞野裕子さん(南部坂幼稚園教師)が受洗されました。主の祝福を心からお祈りします。

*細川本子姉(当教会出身、流山教会員、北川恵姉のお母上)が九月二十九日(金)夜、逝去されました。十月四日(水)午後一時より当教会礼拝堂にて、ご家族のみでの葬儀を執り行いました。

*十月九日(月・祝)、東京教区主催、東京信徒会共催の「宗教改革五百周年記念福音伝道大会」が、青山学院大学ガウチャー記念礼拝堂で行われました。

*十月十五日(日)の礼拝は、東京神学大学院の飯田仰神学生に説教をしていただきました。当日の席上献金は、神学校日献金として東京神学大学に送りました。

*各献金(熊本・大分地震被災教会支援献金、東京神学大学後援会献金、隠退教師を支える運動、神学生を支える献金、オルガン献金、会堂建築献金)へのご協力も、引き続きよろしくお願

《各部報告 十月度》

成人会

日時 十月十五日 主日礼拝後
午後二時より四時まで
場所 会堂会議室

出席者 八名
開会祈祷 鈴木晋兄
内容 エレミヤ書三十章〜三十五章を輪読
「その日」「その時」の終末的事態と「新しい契約」について学ぶ。
当日の礼拝説教「主イエスの約束」で語られた主の一方的な恵み。新しい契約と一致していることを確認した。
次回は十一月十九日、三十六章〜三十九章 担当高橋優美子姉
黙祷を持って閉会

婦人会

日時 十月二十二日 主日礼拝後
場所 教会堂会議室
出席者 八名
開会祈祷 黙祷
閉会祈祷 個別に小祈祷
内容 一、聖書研究「雅歌」一〜八章
主日礼拝で朗読されたり、説教の題材として採用されることはないであろうと考え、敢えてこの書物を読むことにした。全員で輪読の後、松谷牧師の解説を聞いた。神への崇敬の念、賛美する文言は一切なく、恋愛至上主義の愛と恋に塗つぶされた書物であった。

一組の若い男女とそれぞれの同性応援団を交えての恋愛相聞歌。なんとも情熱全開で、きわどい身体描写的な表現もある。異性愛への憧れは、子孫繁栄の意義もあり人生の欠くべからざる側面として、聖書世界においても評価されているようである。
次回以降 「ヨシユア記」抜粋を学ぶこととする。

二、体調が良くない姉妹の消息報告
カトリック、東方教会の聖餐式に関する情報交換